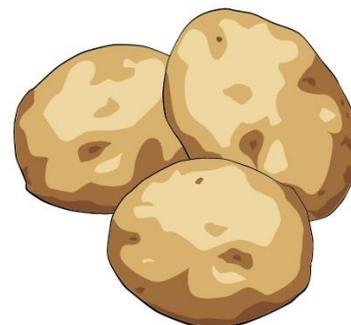


ホクホクのジャガイモをつくりましょう

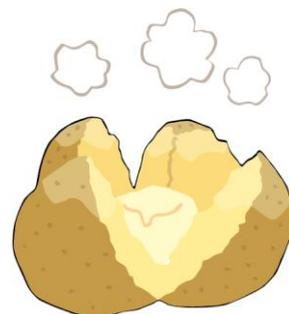
栽培のポイント

●一株から採れる芋数を増やすのは、デンプンエネルギー！
大きめの種イモを利用するか、初期生育からデンプン作りを盛んにさせることにより、実となる地下茎(ストロン)の数を増やすことができます。元肥にMリンPKを利用すると、地上部の徒長を予防し、ストロンの発生を促して、イモ数を増やします。



●つぼみが見え始めるころにイモの肥大が始まる！
MリンPKは、デンプンづくりを盛んにしておいしいイモの肥大を応援します。この頃にしっかり追肥して土寄せをしましょう。

●大きなイモになることでの問題あり！
大きなイモは空洞ができたり、中心が黒くなったりします。このようなイモは食味も良くなく、腐りやすくなります。これらの症状は窒素の効きすぎが原因。収穫前に地上部が黄色く枯れるほどにMリンPKを効かせることが対策になります。



春作の施肥提案 (1a = 30坪)

肥料名	元肥	追肥① 土寄せ前	追肥② つぼみの見え始めの頃	追肥③ 収穫15日前頃
MリンPK	3kg	4kg	4kg	3~4kg
バクヤーゼK	30kg			
NK化成	5kg	4kg	4kg	

曇雨天が続く場合、
リーフアップバリア 500
倍で病気予防

さらに、
リーフアップバリア 300
倍で葉の黄化を促進

課題

ジャガイモの病気①そうか病

代表的なジャガイモの土壌病害。土作りの不備が原因である。特に石灰資材(苦土石灰など)の多投による土壌のアルカリ化と、土壌の乾燥で発生しやすくなります。

ジャガイモの病気②疫病

疫病は、低温で湿度の高い時期に発生するカビの病気です。種イモに付着している場合と雨水を媒介して広がる場合もあるので、長雨が続きときは要注意です。



舟形の厚みのある葉をつくると病気に強い、
おいしいジャガイモづくりができる